

# 1 研究主題

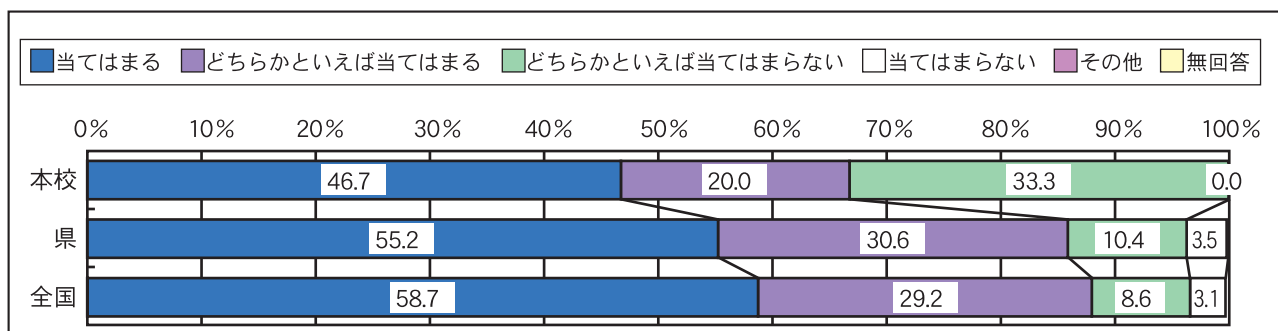
## 主体的に判断し、行動する心豊かな生徒の育成 ～「道德の時間」を要とした道德教育の充実を通して～

### 2 主題設定の理由

変化の激しい社会において、人と協調しつつ自立的に社会生活を送るためには「生きる力」が求められている。自らが学ぶ意思や意欲をもち、未来への夢や目標を抱き、自らを律しつつ自己の責任を果たし、自分の利益だけではなく社会や公共のために行動する人間形成を図る上で、道德教育の役割は大きい。

鶴川地区は1848年に奥能登最初の私塾「生成処」（勤堂塾）が開かれた歴史もあり、教育への関心が高く、学校への期待が大きい。本校に赴任した職員がまず驚くのが、集会での「礼」である。1・2・3のリズムで顔をあげると、生徒の頭は下がったままである。この「礼」一つで職員の気持ちが引き締まる。今後も続けていきたい伝統である。また、挨拶も気持ちよくできる。朝夕に「おはようございます」「さようなら」と職員室に立ち寄って挨拶していく光景はなかなか見られないのではないだろうか。授業においても落ち着いて学習に取り組み、与えられた課題に真剣に向き合っている。また、素直な生徒が多く、学校行事にも熱心に取り組む姿が見られる。部活動でも常に高い目標を持って日々練習している。

一方、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査では、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という質問に平成19年度の3年生は、下のように答えている。また、本校で実施している「悩み・いじめに関するアンケート」の結果によると、1・2年生でも、同じ問いに3割以上の生徒が「分からない」と答えている。さらに、現在もいじめに悩んでいる生徒がいたり、傘などの私物が紛失したことがあった。ときどき机の落書きなどもあり、学校という集団生活の中で「これくらいはいいだろう」という気の緩みをもつ生徒や「自分のことではないから関係がない」と考える生徒の姿が見えてきた。保護者を含めて我々大人が当然そうあるべきと考える規範意識が、本校生徒には十分に育っていないのではないかとと思われる。



そこで心情面と行動面の視点から道德性のアンケート調査を行なったところ、「命や家族を大切に思う」生徒や「男女間の人格を尊重する」生徒が多いことがうかがえた。しかし「よりよい校風をつくって行くのは自分たち一人一人である」といった意識や、「集団の中で友達がルールを破っていても指摘できる」生徒が少ない事が実態として明らかになった。

こうした実態から、ルールを守り、正しいと思うことを実践できる生徒、すなわち「主体的に判断し、行動する心豊かな生徒」の育成を図る必要があると考えた。その具現化された形として、次の3つの姿をめざす生徒像とした。

### めざす生徒像

- ① 自分の思いや考えを大切にし、表現できる生徒
- ② 他の人の思いや考えを大切にし、共感できる生徒
- ③ ルールを守り、正しいと思う行動ができる生徒

なお、この研究指定を受けるにあたっては、以下の4点を研究課題としている。

- I 学校の教育課題を踏まえた道徳教育の重点化
  - ② 善悪の判断、きまりの尊重などの規範意識をはぐくむ道徳教育
- II 道徳教育の計画的推進と道徳の時間の指導の創意工夫
  - ⑨ 「心のノート」の効果的な活用
  - ⑩ 特別活動における実践活動や体験活動などにおける道徳的実践の工夫
- III 指導体制や異校種、家庭・地域等との連携体制の充実
  - ⑬ 家庭や地域等との連携による一体的な推進の在り方

### 3 研究仮説

下記(1)～(4)に留意して

お互いの考えや思いを尊重した道徳の授業ができれば、  
自己と対話し、正しいと思うことを実践する力が育つであろう。

#### (1) 全校的な道徳教育の体制づくり

- ・全体計画、年間指導計画の充実(→研究課題II⑩)
- ・道徳教育推進教師を中心とする全校的な授業体制の確立
- ・すべての「道徳の時間」において、略案の事前提示、授業公開、ミニ授業整理会  
→道徳性のとらえや問題意識の共有化、指導方針の明確化につながる(教師の変容)。

#### (2) 「道徳の時間」の多様な指導法(→研究課題I②)

- ・発達段階をふまえた多様な資料の活用、提示の仕方の工夫
- ・視聴覚機器やゲストティーチャーの活用、ロールプレイ
- ・生徒と一緒に「道徳の時間」での学習のとらえを押さえるための、年度始めの道徳オリエンテーションの時間
- ・情報モラルを高める内容  
→「道徳の時間」で生徒の内面的な自覚を深めていく機会が増える。

#### (3) 心のノートの活用(→研究課題II⑨)

- ・3年間を見通した活用(計画書の作成)
- ・保護者との連携に活用
- ・朝読書や教科での記録に活用
- ・総合的な学習の時間の動機付けや振り返りに活用  
→子どもたちが自分の成長を実感できる(振り返り)。

#### (4) 家庭との連携(→研究課題III⑬)

- ・道徳教育の取組や授業の様子を家庭に伝えるための学校便り、学級便りの発行
- ・日曜日の「親子授業」、保護者参加型の授業
- ・保護者や地域の人々のメッセージを活用した授業

- ・「わく・ワーク体験」で保護者と生徒のよる事業所への挨拶
  - 保護者・地域・学校が同じ方向性を持つことで、基本的な生活習慣や望ましい人間関係、規範意識の向上が期待できる。

以上4つの視点により、「道徳の時間」の充実を図れば、組織としての教師集団の意識の変容が期待できる。道徳性を育てようとする教師の視点が他の教育活動にも生きてくることにつながり、「道徳の時間」での補充・深化・統合と相まって、生徒の中に正しい判断を下す力が身につく。また学校内外で積極的にそれを実践する場を意図的・計画的に設定するならば、自分自身を振り返る機会が増え、様々な場面で自分の課題としてとらえるようになり、よりよく生きようとする姿勢や習慣を身につけることにつながる。

したがって、お互いの考えや思いを尊重した道徳の授業を実践すれば、主体的に判断し行動する心豊かな生徒が育成できると考える。

## 研究構想図

